

平成30年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査結果について

平成30年度 小城市立砥川小学校

全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析することによって教育の改善を図るという目的で、4月17日（火）に文部科学省による『全国学力・学習状況調査（国語A・B，算数A・B，理科，意識調査）』を実施しました。実施対象は、小学校では6年生です。また、同日『佐賀県学習状況調査』が行われました。この佐賀県学習状況調査では、5年生の国語・算数・意識調査を実施いたしました。以下、その趣旨を全国学力状況調査を基に紹介します。

また、本校では、その結果を踏まえ、今後の授業や教育活動の改善に生かしていきたいと思えます。

尚、本調査の結果はあくまでも児童の学力の一部を表したものに過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指していきます。

■ 調査の趣旨（文部科学省より）

- 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の視点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することのより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が全国的な状況と関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげる。

■ 調査の内容

（1） 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A，算数A〕（各20分）	主として「活用」に関する問題 〔国語B，算数B〕（各40分）	30年度調査では理科を追加。
・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など	・ 主として「知識」に関する問題 ・ 主として「活用」に関する問題

（2） 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査



児童生徒に対する調査（20分程度）
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか，授業の内容はどの程度分かりますか，一日にテレビを見る時間，読書時間，勉強時間の状況 など

全体の概要

おおむね達成児童数が多いが、十分達成児童が少ないこと、要努力の児童が多い。全体的な底上げが必要と考えられる。

知識・理解・技能は県正答率を上回るため、漢字や言葉など教えられたことに対する理解はできている。一方で、書く・読む・話す・聞く力が必要な問題に対しては県正答率をやや下回っている。

○・・・成果
●・・・課題

分析結果・自校の課題		改善に向けた具体的取り組み	
話すこと・聞くこと	<p>○聞く態度に関しては、日常の学習から意識している児童が多いため、県正答率をやや上回ることができた。</p> <p>●話し合いの際、何を狙いとして話し合われているものなのか、目的に応じた話し合いについての理解が難しい。</p>	<p>○話し合う際に、話し合うことの焦点（理由・自分の考え・立場）をはっきりさせてから取り組ませる必要がある。</p>	
書くこと	<p>○新聞についての学習は日常的に行っているため、見出しをつける活動はできていた。また、県平均までには達していなかったが、活用力の向上も見られていると考える。</p> <p>●条件に合わせて書く活動が苦手である。</p>	<p>○「二文で書く。」「この言葉を入れて書く。」などの条件を入れた作文課題等に取り組む。</p>	
読むこと	<p>○話し合いに対して、聞く姿勢はできている。</p> <p>●叙述に基づいて考える問題だが、本文に書いている、想像して答える問題には苦手意識が強いので、県平均を下回っている。</p> <p>●文の内容理解ができていないため、書き抜き問題ができていない。また、文章構成への理解ができておらず、文の挿入ができていない。</p>	<p>○読む力をつけるため、初めての文章を読んで、内容をまとめる活動を取り入れる。文章の構成について理解が進むように、説明文のパターン構成についての理解を深める。</p>	
言語事項	<p>○語句・漢字の書き・読みについては定着ができている。</p> <p>●ローマ字の読み・書き両方、正答率が県平均をやや下回っている。</p>	<p>○ローマ字については、児童用パソコンなどを用いて習熟を図る。</p>	

全体の概要

全体としてはどの項目も県平均と同じかやや下回っている。算数全体の到達度は「要努力」の人数の割合が県の平均よりやや多い。十分達成している児童の正答率は県とほぼ同じことから、上位群に入る児童は県平均とほぼ同じ高さの学力が身につけていると考えられる。

○・・・成果
●・・・課題

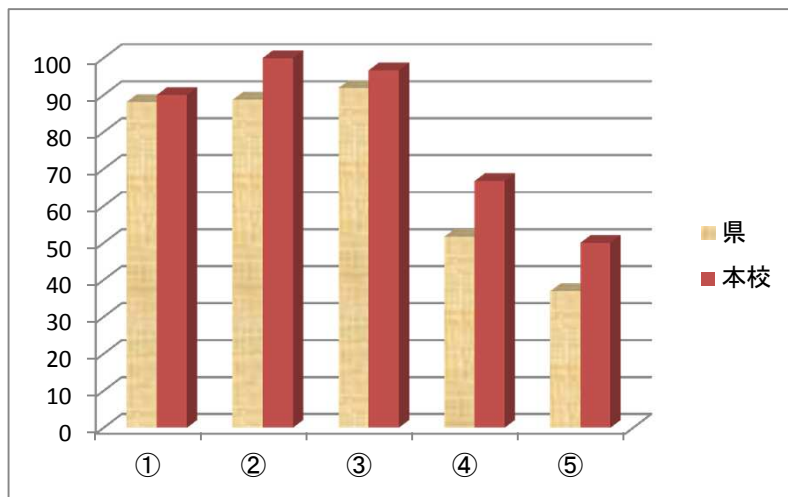
分析結果・自校の課題	
数量や図形の知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ○「数量関係」では、概ね達成は満たしている。 ○無解答率はほとんどないので問題に対して前向きに取り組もうとしている。 ●面積についての感覚を問う問題では、県の平均をやや上回ったが、正答率はかなり低い。身の回りの面積の感覚が十分身につけていないと考えられる。 ●十進位取り記数法についての理解が十分とは言えない。 ●展開図を組み立ててできる立体の辺の位置関係の理解が不十分である。
数量や図形についての技能	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別の中では、技能の正答率は一番高かった。日々の家庭学習や花丸タイムなどで計算技能のスキルアップを続けてきた成果といえる。 ○小数1/100の位までの加法は十分達成できている。 ○同分母の分数での減法は、県をやや上回っている。 ●伴って変わる2つの数量関係の問題では、関係が図や表を使って読み取ることを苦手としている。
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ○文章問題に対しても、無解答率が少なかった。これは、交流活動を繰り返す中で自分の考えを持ち、それを他者に伝えることが定着してきた成果と言える。 ○提供された情報を基に、時間を設定する文章問題では、正答率が高く、生活の活用力があるといえる。 ●おはじきを図形の形に並べて合計の数を求める問題で、図や絵を使っての説明を苦手とした。念頭操作を苦手としていることが考えられる。

改善に向けた具体的取り組み	
	<ul style="list-style-type: none"> ☆今後も交流活動を継続し、算数用語を使って発言できるように指導していく。また、新しい算数用語は、教室に掲示していつでも使えるようにする。 ☆日常生活の様々な場面で、具体物を使った作業的・体験的活動を通して、目で確かめ、実際に計測することで確かな量を時間させる。また確かな知識へとつなぐためにドリルや家庭学習などで繰り返し作業に取り組ませる。
	<ul style="list-style-type: none"> ☆継続して、家庭学習や花丸タイムなどで、さらなるスキルアップを図る。「継続は力なり！！」 ☆どんな問題にも対応できるよう、花丸タイムや家庭学習の中で類似問題、応用問題に取り組める機会を増やす。
	<ul style="list-style-type: none"> ☆算数科だけでなく他教科でも、自力解決→交流活動→適応問題→ふりかえりの学習過程を積み重ねていくことで、内容の理解につなげていく。 ☆学習活動全般において、長文や情報過多の中から必要な部分を取り出すことなども含め、問題文をていねいに読み取ることを習慣化する。



【数値が特に高かった項目】

①	学校に行くのは楽しいと思う。(1) *「そう思う」と答えた児童の割合
②	電子黒板やパソコンをつかった授業は楽しみだ。(57) *「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童の割合
③	授業で使うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていると思う。(28) *「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童の割合
④	携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。(63) *「きちんと守っている」「だいたい守っている」
⑤	友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができていると思う。(8) *「そう思う」と答えた児童の割合

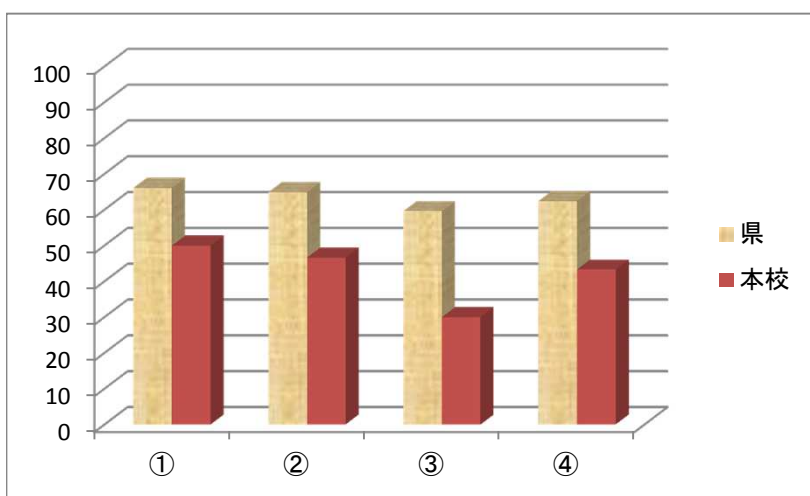


* 分析と取り組み

- ・誰もが安心できる学校・学級作りに全職員で取り組み効果が出ている。(①)
- ・ICT支援員との連携で効果的な指導ができています。(②)
- ・情報モラルの学習を通して、家庭でも約束を守った使い方ができている。(④)
- ・低学年の時から一貫した学習過程の指導がなされ、めあてやまとめがよくできている。(③)
- ・まなび合いの学習を通して、友達の考えを聞いたり自分の意見を持つたりすることに抵抗が無くなってきた。(⑤)

【数値が特に低かった項目】

①	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話しの組み立てを工夫している。(43) *「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童の割合
②	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。(42) *「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童の割合
③	学校の授業の復習をしている。(17) *「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合
④	苦手な教科の勉強をしている。(18) *「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合



* 分析と取り組み

- ・表現することが苦手であるため、文章構成を考えて話したり書いたりできるようにメモを活用する。(①②③)
- ・目的に応じた資料を選べるようになるために、図書館利用を進める。(③)
- ・スピーチタイムやNIEの活動に積極的に取り組ませる。(①②③)
- ・自主学習で復習に取り組んでいる例を紹介することで、能動的に学習に取り組む児童を増やしていく。(④⑤)

A(知識)テスト結果

全体の概要

A問題では、話す・聞く、漢字の書き、語句に関する知識でおおむね達成している。しかし、読む観点では県の平均を大きく下回っている。選択式の問題での正答率は、県の平均をやや上回っている。

B(活用)テストの結果

全体の概要

B問題では、全体的には、県の正答率をやや下回る結果となった。読む観点の問題では、県の平均とほぼ同じ結果であった。複数の文章から目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題や、目的に応じて、複数の本や文章を読む問題の正答率がやや低かった。また、無答率が記述式の問題で県平均より高かった。

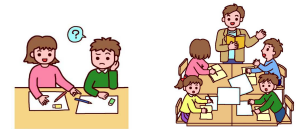
分析結果・自校の課題

改善に向けた具体的取り組み

話すこと・聞くこと

○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す問題においては、県の正答率を上回っており、十分達成の域にある。
●計画的に話し合うために、司会の役割について捉える問題では、おおむね達成の域にあるが、県の正答率を下回った。

☆★場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことを日常生活の中で意識させる。
☆話し手、聞き手、支え手に分かれた話し合い活動を多くの教科で取り入れ、全員に司会やコーディネーターの役割を経験させる。
☆朝の会や帰りの会で、スピーチ活動を取り入れる。



書くこと

○自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える問題においては、県平均を大きく上回り、十分達成の域にある。
●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題では、要努力の域にある。
●目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える問題では、県の正答率をやや下回っている。

☆★条件与えて書かせる短作文に取り組みさせる。
・理由・根拠を明らかにして書く。
・経験・体験を取り入れて書く。
・オリジナル新聞の記事を書く。 など
☆目的を考えた文章を書かせることや、内容を整理しながら意図した文章が書けるような指導を取り入れていく。



読むこと

●登場人物の心情について、情景描写を基に捉える問題と目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む問題では、県平均をやや下回っている。
●目的に応じて必要な情報を捉える問題では、おおむね達成しているが、県平均を下回っている。
●問題文の文章の意味がしっかり理解できていないためか、問題に対して適切に答えることができていなかった。

☆目的に応じて資料を選び、必要な情報を捉える経験を多くの教科、領域で取り入れていく。
☆★文章を読み取るときには、文中に自分なりに大事だと思う文や言葉に、サイドラインを引いたり、印をつけるなどの読み取る技を身につけさせる。
★音読と読書のすすめ(自分が感心がある新聞記事など)



言語事項

●漢字を文の中で正しく使う問題では、全ての問題で県正答率をやや下回っている。
●相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題の正答率が県の平均よりやや下回っている。
○日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う問題は、県正答率を上回り、十分達成の域にある。

☆★漢字学習の徹底
・単なる漢字習得ではなく、文脈の中で使わせる。
・普段から漢字に親しめるような環境を作っておく。(教室内にコーナーを作っておくなど)
・前学年で習った漢字の復習を取り入れる。
★ノートを丁寧に書く指導。(正しい字の知識活用)
★「ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語」などの言葉の学習に加え、短文作りに取り組む。



○・・・成果
●・・・課題

☆・・・学校で取り組むこと
★・・・家庭で取り組んでほしいこと

A(知識)テストの結果

全体の概要

4領域の中では「量と測定」を得意としている児童が多い。問題の後半に無解答率が高かったため、テスト時間内に最後の問題まで間に合っていない可能性がある。そのためか、観点別正答率の技能面が県の正答率よりやや下回っていた。

B(活用)テストの結果

全体の概要

県の正答率と比べると、7割ほどの問題では平均正答率がほぼ同じであった。またA問題に比べて、無解答率の割合が低い。このことから、記述式に抵抗を感じている児童は少ないことがわかる。

分析結果・自校の課題	
数量や図形の知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別正答率の中で一番正答率が高かった。 ●5年の単元である円周率や直径の求め方での正答率が低いことから、学習内容を理解できていなかったと思われる。
数量や図形についての技能	<p>県平均正答率と比較すると・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5年生で学習した内容についての正答率は比較的高い。 ●4年生で学習した内容についての正答率が県の平均よりやや下回っている。 →時間が経てば定着が薄れていく児童が多いと考えられる。 ●割合の問題の正答率が県の平均より大きく下回っていることから、知識としては理解できているが、その具体的な場面を想像することが難しいと考えられる。
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ○記述の例がある問題に関して得意としている。 ○無解答率がそこまで低くないため、記述への抵抗感は少ないと考えられる。 ●文章量や資料が多いと、正答率が低くなっている。 ○分野や領域に偏りがみられない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ○・・・成果 ●・・・課題 </div>

改善に向けた具体的取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ☆児童の得意分野、苦手分野を把握する。その上で、朝の学習タイムを使いながら、復習を行う。 ★自主学習ノートにテーマを設け、自分の苦手な分野の復習を行うようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ☆新しい単元が始まる際に、事前に宿題等でレディネスの調整を行っておくようにする。 ★家庭学習において、理解が進んでいない単元や学習内容によって前学年の内容まで含めた復習問題に取り組ませる。
<ul style="list-style-type: none"> ☆授業中に、図を書く習慣をつけることで、問題のイメージ化を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ☆文章量や資料が多いような問題に取り組ませる機会を設け、解き方を確認する。(線を引く、図を書くなど) ☆学習問題に取り組むときに、自分の考えを記述したり、友達に説明したりする交流活動を仕組む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ☆・・・学校で取り組むこと ★・・・家庭で取り組んでほしいこと </div>

全体の概要

知識・理解については、県平均とほぼ同じであった。全体的に「活用」に関する問題が多く、どの項目も県の平均よりやや下回っている。活用問題では、調べた結果について、何についてまとめているのか、問題の視点を分析したり比較したりすることができていないことが考えられるので、自分の生活経験を根拠とした説明などができるように授業でも取り組む必要がある。また、実験や観察に使用する用具の使い方や注意しなければならないことについての正答率もやや低かった。用具の使用方法についてもなぜそのような使い方をするのか適宜指導が必要である。

○・・・成果
●・・・課題

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> ● 調べた結果について何についてまとめているのか問題の視点を分析したり比較したりする力がやや不足している。 ● 川の流れる水の速さと地面のけずられ方の関係のような問題では、実験前の予想・仮説を考えることでどのような結果になるのか考える力が不十分である。(実験の経験不足) 	<p>☆実験を通してどのような結果になるのか、なぜそのような結果になるのか考えたり考えを交流したりする時間を確保する。また、実験の前には結果の予想やそうなる理由を考える時間も大切にする。そうすることで、実験の正しい結果だけを覚える学習ではなく、結果を予想する楽しさ、予想した通りにならなかった理由をこれまでの生活経験などから考えるような「楽しさ」や「おもしろさ」を味わわせたい。</p> <p>☆日頃から「なぜそうなるか」の理由を、自分の生活経験をもとに考える習慣をつけるような授業を組み立てていく。</p>
技能	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気の流れ方では、予想から結果を見通して実験を行い検流計がどうなるのかを考える力がやや不足している。実験道具使用目的や使い方の認識が必要である。 	<p>☆電気の流れの実験をするためには、正しい用具の使い方や働き（モーター・乾電池・導線・スイッチ・プロペラなど）や回路のしくみをしっかり押さえる必要がある。</p> <p>☆実験の前に実験の結果を自分なりに予想する学習になるように進めてく。</p>
知識・理解	<p>○今回は、「知識」に関する問題が、少なかったため、その問題については、おおむね達成していた。</p>	<p>☆用具の使い方・意味を正しく理解できるようにしていく。逆に、なぜそのような使い方は正しい使い方と言えないか理由がいえるようにする。</p>



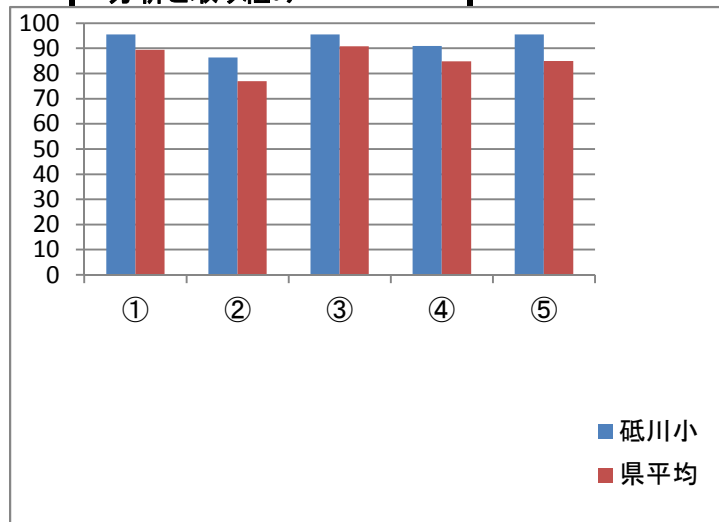
◆生活習慣に関する「質問紙(意識)調査」から 《6年生》

小城市立砥川小学校

【数値が特に高かった項目】

①	設問9 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
②	設問8 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
③	設問4 学校のきまりを守っている。
④	設問2 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。
⑤	設問3 将来の夢や目標を持っている。

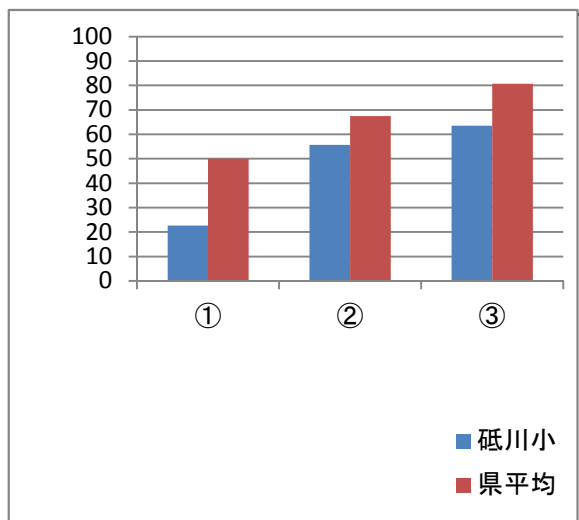
*** 分析と取り組み**



- 起床と就寝の時刻が一定している。設問7の『朝食を毎日食べている。』が「どちらかと言えばしている」を含めて94.4%であることも併せて、比較的規則正しい生活ができていると考えられる。
- 『学校のきまりを守っている。』では60%弱が「当てはまる」で、県平均を大きく上回っている。規範意識が高い傾向にあると言える。似たようなことでは、『学校の宿題をしている。』で「あまりしていない」と「していない」が0%である。これらから、すべきことをきちんとしようとする意識の高さが伺われる。
- 『先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。』では、「当てはまる」が半数で県平均をやや上回っている。教師との良好な関係が推測される。
- 『将来の夢や目標を持っている。』では、「当てはまる」が77.3%で県平均を10ポイント上回る。キャリア教育を実施していることも功を奏しているのではないかと推察される。

【数値が特に低かった項目】

①	設問22 地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある。
②	設問32 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
③	設問35 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。



*** 分析と取り組み**

- 『地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある。』では、「当てはまる」が0%で、県平均の15.9%に比べ大きく下回った。しかし、よいことをすることに興味が無いわけではない。設問6の『人の役に立つ人間になりたいと思う。』では「どちらか」として「当てはまらない」と「当てはまらない」は0%である。設問23にボランティアに関する設問があるが、経験する機会が少ないことが読み取れる。地域や社会について知らせ、実際によりことをする経験をさせることで、意識が変わることが期待できる。
- 設問32と35はともに算数のことだが、設問28の『算数の勉強は大切だ。』で90.9%が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている。算数は大切だが、それが他教科、ひいては実生活に役立たせたいとあまり考えていない児童に、教科全体や学校生活の中で算数を役立てる経験をさせる必要があると思われる。同時に算数の授業では、新しいことを知識として学ばせるだけでなく、公式やきまりを見つけ出す課程を疑似体験するような学習にももう少し時間をかける必要もあると思われる。